

**現状で良い：本当にそうですか**

このままだと本当に疲弊し消えゆく町になってしまわないだろうか。そんな危機感を持っている人は少なくないと思いますが、かと言ってここで未来への投資をするべきだと言いつける人は、どれくらいいるのでしょうか。

どうあらがっても人口減少は止められない。であれば細々と現状維持で過ごすべきではないか。しかし、この数年で国は地方創生に本格的に取り組むようになり、現状維持はその後でも遅くはないと考えます。

# 地方創生の取り組み 14



完成予想図。ランプの宿森つべつが建物の右奥に見える。

現在町では、町民の森自然公園に「ネイチャーセンター」を整備しています。自然体験等の提供を通じて、自然保全・観光拠点となる役割が期待されます。センターの概要と可能性についてご紹介します。

ランプの宿森つべつに隣接する道内唯一の森林セラピー基地、町民の森自然公園(上里)にネイチャーセンターを整備しています。

今年、津別峠で行われている雲海ツアーや宇宙ツアーには、6000人の方が訪れました。また、津別峠から美幌峠、藻琴山まで約20kmに及ぶ遊歩道を作ろうと津別・美幌・大空の3町の観光協会、環境省等が計画しています。さらに、津別町に隣接する阿寒摩周国立公園は、海外にPRを行い世界水準の国立公園へと変わろうとしています。

訪日外国人を含む観光客の増加が期待されるため、町は計画書を作成し、国から地方創生への波及効果の発現が期待できるものを対象とした交付金(地方創生拠点整備交付金の補助をいただき、立ち寄り拠点を平成31年度開設に向けて整備することになりました。

この施設を活用して、地域資源の高付加価値化・地域への再投資・人材の育成等あらゆる可能性を探りながら、観光産業の確立を目指します。また、イベントの開催やカフェ・売店・アクティビティツアーデスク(遊びや体験ツアーをサポート)を設置予定ですので、お気軽にお

立ち寄りください。同様に、来年4月にリニューアルオープンを予定している木材工芸館(広報9月号を参照)で木工品に触れ、ネイチャーセンターを拠点として森と親しむことで、わが町は「木の町」「愛林の町」としての魅力を一層増していきます。

**問い合わせ先**  
産業振興課 商工観光グループ  
☎76-2151  
(内線315・258)



**北海道大学の学生団体 HALCC(ハルク)と連携したまちづくり**

3期目となる今年度は、過去最多の26名の学生が「北大マルシェ班」「若者議会班」「津別留学班」の3つの班に分かれ活動しており、12月8日午後1時30分から中央公民館にて一般公開形式で最終成果報告会を行う予定となっております。

今月は、簡単に各班の取り組み状況を報告いたします。

**○北大マルシェ班**

津別高校との連携事業で、津別高校生と北大生が、北海道大学構内で津別の特産品の販売を行い、町のPRを行うと共に、地元魅力を再発見する企画です。

出店前に大学生との事前ワークショップを行い、「何を販売するか」「店名は何にするか」「店舗のデザインはどうするか」などを高校生の意見で決定し、放課後等を利用し店頭広告の作成などを行いました。

10月20・21日、高校生が、北海道大学を訪れ、特産品の



▲北大構内で特産品を販売する津別高校生

販売を行いました。高校生自ら町と商品の魅力をお客さんに伝え、持つて行った商品はほぼ完売となりました。

**○若者議会班**

津別高校との連携事業で、津別高校生と北大生が、町の課題とその解決策について考え、最終成果報告会で発表してもらうことで、若者の意見をまちづくりに反映すると共に、次世代のまちづくりの担い手を育成する企画です。

最終成果報告会に向け、大学生のサポートを受けながら、「現状分析」「目指すべき理想像の設定」「課題抽出」「改善策の検討」を行いました。

11月17・18日、高校生が、



▲北大生のサポートで発表資料を作成する津別高校生

北大生のサポートを受けることと見聞を広めることを目的に、北海道大学を訪れ、発表資料の作成や発表練習を行いました。

**○津別留学班**

北大生による単独企画で、「津別を学ぶ」をテーマに点在する観光資源や体験型観光をストーリー化した子ども向け体験型教育プログラムの作成し、津別ファンの獲得を目指す企画です。

10月5日〜8日で北大生7名が来町し、町内の事業者のヒアリングや町内見学を実施しました。

現在、最終成果報告会に向けてヒアリング内容を基に

**気になる用語説明⑩**

**【HALCC(ハルク)】**  
Hokkaido Academic Local Creation Conferenceの略。平成28年3月に実施した「津別町まちづくりアイデアコンペ」で優秀賞を獲得した北海道大学公共政策大学院の学生が有志で立ち上げた学生団体で、「北海道の学生が北海道の地方創生について考える機会が少なくない」という問題意識から誕生しました。

平成28年度から北大生が実際に津別町を訪れ、地域の事業者と交流しながら現地調査を行い、大学で学んでいる知見を活かし、1年に1度、まちづくりのアイデア提案を行って来ています。